

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	立命館宇治中学校・高等学校 新棟	階数	地下1階、地上3階
建設地	京都府宇治市	構造	RC造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,660 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2019年11月5日
敷地面積	115,996 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社山下設計
建築面積	1,358 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月8日
延床面積	2,861 m <sup>2</sup>	確認者	宇治市



<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>
<p>BEE = 1.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>0 46 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

<b>2-4 中項目の評価(バーチャート)</b>		
<b>Q 環境品質</b>		
Q のスコア = 3.2		
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.9 	<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.3 	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 3.4 
<b>LR 環境負荷低減性</b>		
LR のスコア = 3.0		
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 2.9 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.1 	<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3 

<b>3 設計上の配慮事項</b>	
<b>総合</b> ・地域の特性や学校の特色を活かした計画 ・建物の高断熱化	<b>その他</b> ・保存林、保安林の保護
<b>Q1 室内環境</b> ・廊下部分を含めた清潔性、温熱環境への配慮 ・外気処理空調機を採用、建物背面の山からの湿気に対して除湿能力を確保 ・化学物質(VOC)の低減	<b>Q2 サービス性能</b> ・バリアフリー化(多目的トイレ、エレベーター、引き戸など) ・耐震性能の向上
<b>LR1 エネルギー</b> ・LED証明器具の採用 ・照明への人感センサーの採用、間引き点灯 ・既存建物の中央熱源を活用、稼働率の向上による熱源効率の向上	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・再生材(クラッシュラン等)の利用(低環境負荷材) ・節水型衛生器具の採用(水資源の保護)
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地の山側に散策路を整備	<b>LR3 敷地外環境</b> ・近隣住宅からの視線に配慮(建物高さを抑える) ・悪臭の防止(排気口の向きを山側とする)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

